

「4ポイントのキリスト教でありたい」

東京キリスト教学園 理事長
日本同盟基督教団 理事長
聖書を読む会 理事 (出版担当)
廣瀬 薫

私は教会でよく、「3ポイントのキリスト教ではなく、4ポイントのキリスト教」であることが大事です、という話をします。3ポイントのキリスト教というのは、①神、②罪、③救い、というキリスト教です。神様がいます、あなたには罪があります、イエス様が救い主です、というキリスト教です。私自身も、大学生の時に初めて教会に行って触れたキリスト教は、この3ポイントであったように思います。

3ポイントのキリスト教の言っていることは全く正しいのですが、それだけで終わってしまうと一つ足りないと思っています。「救われた後」どのように生きて行くのかというビジョンが入っていないのです。3ポイントで終わると、救われて洗礼を受けたらゴールインと受け止める可能性があります。

本当は、洗礼は信仰生活のスタートです。それなのに洗礼をゴールにしてしまうと、確かに救われた喜びはあるのですが、その後どのように生きて行けばよいか分からないので、信仰と実生活が別々のものになりがちです。日曜日は信仰深い、月曜日から土曜日は全然違うこの世の原理に立って生きているかも知れません。そういう生き方は価値観が二元論に分離しますから、当然、物凄いストレスに満ちた信仰生活となります。日本の教会では、せっかく洗礼を受けても教会を離れる方々が多いと言われ、「卒業信者」とか「クリスチャンの平均寿命」などという不思議な言葉を聞くと残念に思います。

キリスト教は3ポイントではなく4ポイ

ントで、「救われた後」が大切です。①神、②罪、③救い、そして④「聖書のキリスト教世界観に立って、神の国を造る人格として生きていく」という、喜びに満ちた、素晴らしい生き甲斐に溢れた人生があるのです。キリスト教は「救い」も「救われた後」も大事です。

では、「救われた後」の喜ばしさを学ぶのは、いつが良いでしょうか。洗礼を受けた後に学ばばよいという考え方もあるでしょう。私もかつてはそう思って、「聖書入門クラス」と「アフター・バプテスマ・クラス」を用意していました。しかし今では、初めから「救われた後、いかに喜ばしい地上の人生が、本来の人生として用意されているか」ということを分かち合った方がいいと思っています。つまり、キリスト教入門の学びや、未信者との学びをする時、「罪と死と滅びからの救い」だけでなく、「その後、自分と周りを本来の姿に活かして完成に向かう」明るいビジョンを、分かち合うようにしています。クリスチャンになる時、家族や周囲との関係が失われるのではないかと恐れたり悩んだりする方がありますが、自分が信仰を持つことは、地上の関係を捨てるのではなく、そこに神様の命をもたらして活かし、祝福を広げることになるのだという、明るいビジョンを持ちたいものです。

「聖書を読む会」が新しい「救いの基礎」の必要を覚え、熱心にその作成と発行に取り組んで来たのは、私が4ポイントのキリスト教と表現しているような、学ぶ人の人生全体、関係全体に神様の命をもたらすことを願ってのことでしょう。新しい手引が魂のニーズに真に応えるために用いられることを願っています。

